

科目名	社会福祉論／福祉社会論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	堀川 祐里	実務経験の有無		○	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-A-1-110047	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	<p>社会福祉のあり方を歴史的な視点から解明することが本授業の目的である。</p> <p>「福祉」というと、漠然と自分には関係ないことのように感じている受講生もいるだろう。しかし、実は日本で生活する多くの人にとって、生きていくためには欠かすことのできないものなのである。この授業では、「人はなぜ働くのか」、「働けない時にはどうやって生きていくのか」という問いを、歴史的な視点から考えていきたい。</p> <p>将来、社会人として仕事に就き生活を送ることになる受講生に、社会福祉について学ぶ機会を持ち、社会人として自立する力を身につけてほしいと考える。</p> <p>また、本科目は基礎科目であるため、大学での学習の仕方についても身につけてほしい。そのため、中間試験、期末試験、期末レポートのほか授業内にも様々な課題をおこなう。その点によく留意して履修を検討すること。</p>				
学修到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、日本の社会福祉の現状とその課題を歴史的に理解する。 2、社会福祉に関する基礎知識を身につけ、説明できるようになる。 3、授業で学んだことを、自分の生活に関連付けて自分の言葉で論じられるようになる。 				
実務経験との関連性	社会保険労務士事務所での実務経験から、労働保険に関する内容を講義する。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション：授業計画、成績評価、注意事項等に関する説明。
第2回	社会福祉とは何か：資本主義社会における労働と生活
第3回	期末レポートについて

第4回	社会福祉の歴史的展開1：イギリス①絶対王制下の救貧制度～貧困の「発見」
第5回	社会福祉の歴史的展開1：ドイツにおける社会政策の歴史的展開
第6回	社会福祉の歴史的展開1：イギリス②世界恐慌～福祉国家の成立
第7回	社会福祉の歴史的展開2：日本①戦前
第8回	社会福祉の歴史的展開2：日本②戦時期 ※2～3人のグループに分かれてグループワークをおこなう。
第9回	社会福祉の歴史的展開のまとめ（中間試験）
第10回	現代日本の家族と社会福祉①
第11回	現代日本の家族と社会福祉②
第12回	労働保険
第13回	社会保険

第14回	公的扶助① 貧困と生活保護
第15回	公的扶助② ジェンダー視点から見た貧困問題
第16回	定期試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。本講義は、受講生が将来社会人として自立する力を身につけるために、自己学習の習慣をつけることを推奨する。新聞やニュース等で報道される社会福祉に関する話題にアンテナを張り、情報収集を心がけること。
【復習】時間・内容	2時間。本講義を履修するにあたっては、授業後の復習を重要視する。授業内に行う中間試験や課題をクリアできるよう、毎回の授業で扱った範囲についてはその都度復習を行い、必要がある場合には教員に質問し、疑問点を解決しておくこと。講義は前回までの授業の理解を前提に進んでいく。そのため、前回学習した内容についてよく復習し、次の授業までに疑問を解決する（ないし、教員に質問をする準備をする）ことが、学習効果を上げることにつながる。

成績評価	
評価基準・方法	4種類の評価方法の総合評価であり、その内訳は、期末試験50%、中間試験20%、期末レポート20%、その他10%である。 ※期末試験は持込不可とする。 ※中間試験は、授業の理解度の確認のため持込可とする。 ※期末レポート課題を課す。本科目では、受講生が自己学習を行うことによって、自ら社会に対する視野を広げていくことを重視している。期末レポートは後期の期間全体の時間をかけて取り組むこと。授業内に、期末レポートの取り組み方についての説明を行う。 ※その他として、授業内でのリアクションペーパーやグループワーク等の課題を行う。
フィードバック方法	中間試験については、受講生の理解度に応じて授業内に解説を行う。また、授業内で課題を行った場合には、代表的な意見を取り上げて講評を行う。なお、個別の質問に対しても、適宜対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	<p>教科書は用いず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進める。受講生には「メモ」をとることを習慣づけ、自分だけのノートを作成していくことを心がけてほしい。なお、ポータルサイトでの資料配布を行うため、授業の前にはポータルサイトを確認し、適宜資料の印刷を行うておくこと。</p> <p>自己学習のための参考書としては、以下の文献を挙げる。</p> <p>石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編著（2019）『よくわかる社会政策 第3版 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房。</p> <p>岩田正美（2007）『現代の貧困 ワーキングプア/ホームレス/生活保護』ちくま新書。</p> <p>唐鎌直義（2012）『脱貧困の社会保障』旬報社。</p> <p>阿部彩・鈴木大介（2018）『貧困を救えない国日本』PHP新書。</p> <p>岩永理恵・卯月由佳・木下武徳（2018）『生活保護と貧困対策 その可能性と未来を拓く』有斐閣ストゥディア。</p> <p>上記に挙げた文献のほか、参考書は授業内に適宜紹介する。</p>
受講上の留意点等	<p>授業に関しての詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、原則として第1回目の授業に出席すること。</p> <p>本科目は基礎科目であるため、大学での学習の仕方についても身につけてほしい。そのため、中間試験、期末試験、期末レポートのほか授業内にも様々な課題をおこなう。その点によく留意して履修を検討すること。</p> <p>皆勤が原則であるため、出席自体は評価の対象とはならないが、授業では自分で「メモ」を取ることを重要視している。</p> <p>また、授業内に実施する「その他」としての課題に積極的に取り組むことが必須である。</p> <p>「成績評価」に記しているように、定期試験だけを受験して満点を取っても、授業内で行う中間試験、期末レポート、その他の課題での得点がない場合は、単位が付与されないのに注意すること。</p> <p>なお、各回の授業内容は受講生の理解を促進するために、順序を入れ替えることがある。</p> <p>関連科目は「日本経済史」や「日本経済論」である。これらの授業はお互いの科目の学習内容を補強するため、関連科目を併せて履修することにより、学習が深まる。</p> <p>最後に、授業中、他の受講生の迷惑になる行動については慎むこと。</p> <p>特に私語は厳禁とし、私語を行っている受講生には教員が退室を促すことがある。</p> <p>この講義は、授業全体を通して受講生が社会人として活躍する将来を展望して展開される。受講生には「大人」としての振る舞いを求める。</p>
JABEE	